

『Mind Charging』

第 74 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 7 月 8 日

矢沢永吉の名言



最近勝ち組とか負け組みとか流行っているけど、 スタート切っているかどうかは僕は大事だと思うけどね。

このコラムで彼を紹介しようと思ったきっかけは、私自身が彼を良く知らないからです。私よりも少し年上の世代には彼の熱狂的なファンが多く、70歳を過ぎてもなお自分のスタイルを貫き、ロックというハードなジャンルの音楽を追求し続ける彼の人生や姿勢について興味を持ちました。彼はヒット曲と共に数々の名言も残していますが、今回はこの言葉を紹介します。

確かに、いつからか『勝ち組・負け組』という言葉が世間で良く言われるようになりました。初めてこの言葉を聞いた時に『何をもって勝ち組(負け組)なんだ？勝ち組はずっと勝ち続けられるわけでもないし、負け組は一生勝つことができないなんて誰が決めたんだ？』と思いました。もし、最初から勝ち組や負け組が決まっていたり、人生のかなり早い段階で決まってしまうのだとしたら、これから努力する意味なんてないと思いますし、人間の才能はそんなに個人差が大きいものではないと思います。だからこそ彼が言うように『スタートを切っているかどうか』が重要になってくるのだと考えられます。

私自身もこれまでの人生の中で『勝った(成功した)』と思ったこともあります。しかし、トータルで考えたら『負けた(失敗した)』と感ずることの方が圧倒的に多い気がします。では、なぜ今は気持ちを切り替えて毎日を過ごすことができているのかを考えると、“リスタート”しているからだだと思います。彼の言うスタートを切るということは『行動』ということだと思います。人生とは、決して止まることなく流れる『時間』の中で小さなストップとリスタートを繰り返して進んでいくのではないかと私は考えています。ストップするまで進んできた方向のまま進み続けるためにリスタートすることもあれば、進路変更という形でストップし、リスタートすることもあります。実際に走る時と同じで、走っている時よりも止まっている時の方が楽に感じますが、人生においては止まっている時が必ずしも楽ということではなく、人生を充実させるためには様々なアクションを起こすことが重要だというメッセージとして受け止め、挑戦も一つの行動だと思いました。今も輝き続ける彼の魅力や彼に魅了される人の気持ちも少しだけ理解できた気がします。パワフルに行動していきたいものですね。(編集委員：入試広報室 鈴木)

矢沢 永吉(やざわ えいきち、1949年(昭和24年)9月14日 -)は、日本のロックボーカリスト、ミュージシャン、タレント。広島県広島市仁保(現:南区)出身。身長 180cm、血液型は B 型。(Wikipedia 参照)